

消化器内視鏡治療を中心にやってきました



畑田部長

消化管を中心とした消化器内科を担当しております畑田康政です。昨年の9月に青森から赴任してきました。いろいろな方にお世話になりながら何とか慣れてきたところです。

もともとは東京の出身で、当院の近くの都立戸山高校に昭和49年から52年の3年間通学しました。昭和59年に青森県の弘前大学を卒業後、青森県内の他に函館などを回りました。平成7年から青森県立中央病院、平成16年から青森市民病院で勤務し、消化器内視鏡治療を中心とした消化器内科を専門に診療してきました。

さまざまな内視鏡治療

消化器内視鏡治療と一言でいってもいろいろなものがあります。出血性胃十二指腸潰瘍に対する内視鏡的止血や、胃がん、食道がん、大腸がんなど早期がんの内視鏡治療を数多く手がけてきました。その他に総胆管結石に対する十二指腸乳頭括約筋切開術(EST)や閉塞性黄疸に対する胆汁ドレナージ、食道胃静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法または結紮術、狭窄に対する拡張術およびステント留置、さらにダブルバルーン内視鏡など、広範囲にわたって経験を積んできました。消化器内科医の少ない青森県では一人の内視鏡医がほとんどすべての手技をこなしているのが現状です。

内視鏡治療と同時に炎症性腸疾患(IBD)の患者さんにも永くかかわってきました。弘前大学第一内科というところは、初代教授の松永藤雄

内科部長 畑田 康政

先生が日本における大腸疾患の先駆けで、今もその伝統を受け継いでいるところです。私も炎症性腸疾患をはじめとした大腸疾患を専門として教えを受け、炎症性腸疾患の患者さんとの関わりを持ち続けてきました。そういう意味でも当院で診療させていただく機会を得られたことはとてもうれしく思っております。現時点では消化管疾患の診療の基盤を固めることが最優先で、IBDについてはまだ積極的に関与できる状況ではありませんが、いずれはより密な協力体制が組めるようになればと願っております。

患者中心の医療を目指して

当院で働いてみてまず素晴らしいと感じたことは、都会の有名な病院にしては極端に専門化に走ることなく、総合的な診療を柱としていることです。特に内科ではカルテも共通で改まった診療依頼などなしに、各専門医と一緒に患者を診ている体制に感心いたしました。患者さん中心の医療という点からは望ましいことだと思います。

医療全体の進む道も混沌としている時代ですが、患者さんのためによりよい病院となっていくための力になりたいと思っております。また、私を育ててくれた青森県、東北地方の医療に何か寄与したいという気持ちも抱きつつ頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



内視鏡検査をする畑田部長